

令和4年度 学校自己評価システムシート (県立久喜高等学校 定時制)

e03

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

目指す学校像	個に目を向け、基礎学力の充実を図り、生徒全員の進級・卒業・進路希望を実現できる学校
重点目標	<p>1 生徒の授業参画意識を高め、一人一人に応じた学びを支援し、基礎学力の向上を図る。</p> <p>2 健やかな心身の育成を図り、将来の生き方を考えさせ、希望進路の実現を図る。</p> <p>3 学校情報を積極的に発信し、地域の期待と信頼に応え、地域とともに歩む学校を推進する。</p>

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	3名
	生徒	2名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					学 校 関 係 者 評 価		
年 度 目 標					4年度評価(1月19日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	<p>【現状】 落ち着いた環境の中で授業が行うことができ、生徒の授業態度も良好である。しかし、学習の振り返りが必要な生徒や学習習慣が身につけていない生徒、不登校傾向の生徒、日本語が母国語でないため日本語の理解力が不足している生徒等がいる。</p> <p>【課題】 個々の生徒が抱える課題の解決に向けて、効果的・継続的な支援を、全教職員の共通理解の下で行う必要がある。</p>	○学習習慣等の確立を目指した生徒支援体制の充実。新学習指導要領を見据えた取組み。	①生徒の学習習慣の確立や、基礎学力の向上を目指した指導法を引き続き検討し実践する。また、多文化共生推進員、学習サポーターを有効に活用する。 ②主体的、対話的な深い学びを引き出す授業の取組や、観点別評価など評価方法について引き続き検討する。	①成績優良者数増加や成績不振者数減少が実現できたか。 ②生徒アンケートで、授業改善に積極的に取り組んでいるとの回答割合が多かったか。	①基礎学力向上を目指し、担任、教科担当、学習サポーター、多文化共生推進員の連携は図れたが、成績優良者および成績不審者数は昨年度と比較をしたところ、ほぼ同数であった。 ②生徒アンケートの結果、あてはまる、大体当てはまるが、90%であった。昨年度よりやや増加している。	B	今年度1学年から観点別評価を導入した。次年度への課題は、タブレットの導入が開始されるので、主体的、深い学びになるようにし、成績優良者を増加させ、欠点保有者を減少させることである。
		○個々の生徒の課題を把握して個に応じた課題解決のための取組を推進	①ソーシャルスキルトレーニングを行い、生徒が自立出来るように効果的な支援を行う。 ②スクールカウンセラーの専門性を生かし、相談窓口の充実を図るとともに、教職員のスキルアップを図る。	①各事業を着実にを行うことで、個に応じた課題を解決できたか。退学者が減ったか。 ②生徒アンケートで、相談・支援等の体制が整っていると回答した割合が多かったか。	①ソーシャルスキルトレーニングおよび他の自立支援事業を着実にを行った結果退学者を減少させることができた。 ②担任およびSC、SSW等が協力をした結果生徒アンケートにおいて、あてはまる、大体当てはまる、が84%であり、昨年度より増加している。	A	久喜高校自立支援事業を継続的に行っている。次年度に向けて担任および教員、SC、SSW等の支援体制を手厚く行い、さらなる退学減少に向けて、協力していく。
2	<p>【現状】 生徒の問題行動は少なく落ち着いた。また、計画に基づいた進路指導も成果が出ている。</p> <p>【課題】 毎年、多様な生徒が入学しているため、教員間で共通理解に基づいた組織的な生徒指導が必要である。 卒業時の進路未決定者ゼロ、特に就職希望者は正社員での決定を目指した指導が今後も必要である。</p>	○共通理解に基づく組織的・継続的な生徒指導の推進と生徒支援体制の充実	①早い段階での面談を実施し、生徒の諸問題の把握や問題行動の早期発見と未然防止を強化する。 ②生徒指導部を中心とした、交通安全指導や非行防止指導に努める。	①生徒アンケートで、基本的な生活習慣や社会のルール・マナーを守る態度を育てることに努めていると回答した割合が多かったか。 ②軽微なものを含め生徒指導件数が少なかったか。	①生徒アンケートの結果、あてはまる、大体当てはまる、が73%である。各分掌、教科等で連携を図ったが、昨年度より減少している。 ②生徒指導件数は、昨年度は1件、今年度は3件となりやや増加したが、生徒指導部、担任との連携はとれている。	B	問題行動の早期発見や未然防止は、教員の協力のもとできている。 次年度は指導件数を減らしたい。交通ルールやマナーに関しては、次年度外部から講師をお願いするなど工夫していく。
		○個に応じた進路実現を目指すため、組織的・計画的な進路指導の取組の推進	①進路行事を計画的に実施し、進路講演会や就労体験を効果的に行う。 ②スクールソーシャルワーカーの支援も得て手厚い進路指導を行うことで、生徒の進路指導を実現させる。	①生徒アンケートで「進路について考えるようになった」が増加したか ②卒業時に進路希望を実現できたか。	①あてはまる、大体当てはまる、が90%をこえていて、昨年度より増加している。 ②担任、進路指導部協力のもと8名の希望者のうち、7名の生徒が進路を実現することができた。残り1名も就職活動中である。	A	各種支援の結果、進路実現に向けた進路指導を行えた。進路行事を1学年から4学年まで計画的に行い、さらに進路への意識づけを行っていく。
3	<p>【現状】 学校情報を様々な場面を通じて発信している。</p> <p>【課題】 定時制教育への理解と、社会に開かれた教育課程へ向けた取り組みが必要である。</p>	○積極的な学校情報の発信	①学校説明会、夕方の説明会、保護者向けの公開授業を実施し、定時制について理解を深めてもらう。 ②近隣中学校や地域への学校新聞の発行とホームページを適宜更新し、定時制教育への理解を広める。	①参加者の満足度、参加人数が増加したか。 ②近隣地域や各中学校へ学校新聞を発行できたか。ホームページの更新を適宜行えたか。	①各種の説明会の人数が増加している。また、12月5日の本校希望倍率が昨年度0.15倍から今年度0.25倍と増加している。 ②ホームページへの配信は行事ごとにこまめに更新できたが、学校新聞の発行回数5回から2回へと減少した。	B	次年度、本校の取組や生徒の活動がより伝わるようホームページを充実させていく。 学校新聞の発行回数が減少したので、増やしていく。

実施 令和 5年 2月 2日
学校関係者からの意見・要望・評価等
第1回、第2回学校評価懇話会において生徒の授業の様子を見たが、落ち着いて授業を受けている。また、丁寧に授業をされていると感じた。今後は生徒の良さを伸ばしていただきたい。あわせて、欠席がちな生徒や、勉強が苦手な生徒へのサポートをお願いしたい。
現在行われている、久喜高校自立支援事業を継続していただき、教職員、SC等の協力のもと退学者の減少を推進してほしい。また、一つの方法ではあるが、対面で問題を解決したり話し合いを多く取り入れることにより成果がでる。
問題行動の減少のために、未然防止や早期発見が教員の協力によって、できていることは素晴らしい。今後も継続させてほしい。交通ルールやマナーについては、機会があるごとに粘り強く指導していただくことが大切である。
進路に関しては、欠席が多いと希望の就職を現実にするのは、難しい。生徒個人個人が、学校に行きたいという気持ちになるようにしていただきたい。進路実現ができるように学校全体で取り組むことが、大切である。
ホームページや生徒アンケートを拝見すると、文化祭などの行事が、良いと感じた。また、5年前より出席率が良くなっている。それが、本校の希望者の増加につながっているのではないかと。外部へのアピールは大切なので、ホームページも更新をこまめに行っていたら、学校新聞の発行回数を増やしていくことも大切だと思う。